

## 偏見と多感

白鷗大学法学部教授

荒木 教夫

ある高名なインド学者によれば、学問とは古典を読むことに尽きるそうです。しかし、そもそも古典を読むとは如何なることでしょうか。読むことと理解することは同義と言えませんから、読んだからといって理解したと断言することはできません。古典が書かれてから相当の時間が経過しているわけですし、その上、仮にそれが外国の文献であれば、我々とは異なる文明の中で書かれているからです。福田恒存氏は晩年に自分の全集を読みなおして、分からなかつたのは「わずか」3箇所しかなかつたと語ったそうです。厖大な分量の文章を書き残したとはいえ、あれほど論理明快な大家であっても、しかも自己の書いたものであっても分かりづらくなるというのであれば、我々凡人が古典を読んで果たしてすんなりと「正しく」理解できているなどといえるかどうかははなはだ心許ないことになります。このことは、歴史の認識についてもあてはまります。古今東西を問わず、過去の出来事を理解しようとするとき、実はその当時の環境の中で理解しなければならず、そうでなければ当事者にとって失礼であろうし、そもそも「歴史に学ぶ」ことはできないでしょう。我々はどうしても、現に生きている時代と社会の価値観に影響を受けつつ歴史を理解する傾向があるし、個人的経験にも制約されてしまうからです。

敬愛してやまないK教授は、齢80を迎えることになりますが、依然として頭脳は明晰で、「消え行く人」にはなっていません。K教授の方法や人と社会の捉え方には大いに賛同できる

のですが、唯一戦争については見解を異とするようです。詳細は省きますが、戦争の話になるとK教授の議論は頑なです。過去のものであれ未来のものであれ、戦争は何が何でもいけないといます。「兄を二人戦争で亡くしているから」というのがその理由です。戦争についてのK教授の見解は、肉親を亡くしているという事実に大きく影響を受けています。戦争という社会現象を捉えるにあたって、個人の経験が大きく影響を受けているわけです。自己の内に他人を100%内在させない以上、そして、それが不可能である以上、誰でもが多少なりとも経験至上主義の陥穀に陥るわけですが、これほどになると、戦争を学問の対象として議論することはほぼ不可能です。

歴史認識や古典講読だけでなく読書一般についても当然同じことがいえます。人は同じ本を読んだからといって、皆が同じ感想を持つことはなりません。日本人にとって虹は7色ですが、6色という民族もあれば4色という民族があるのと同じです。もっと極端な例を挙げれば、Aという人が認識している赤色がBという人の認識している赤色と同じ色だともいえませ



ん。人は生まれた時に目を見開いてはいるものの、何も見えてはいないといわれています。目に映像を結ぶようになるのは後天的な経験によるものだそうです。我々の認識には偏見がつきものなのです。

そうなると、そもそも書かれた時代状況と書いた人の価値観を理解しつつ読書するなどということは果たして可能でしょうか。極めて困難な作業というしかありません。しかも、古人がいう如く、「理解とは願望」なのですから。それ故、何よりもまず、我々が個人的経験、時代と社会に特有の価値観という制約の中で生きているということを認識することが必要ということになります。少なくとも自分が何に制約されているのかを意識的に知ろうとする努力が不可欠となるわけです。内なる制約（価値観）を認識したとき、初めてその制約から自由になるわ

けです。書物の書かれた時代状況を知ることは必要であることはいうまでもありません。

他方、上述してきたことと矛盾するようですが、「自己の価値基準」に基づいて、自由な読み方をすることも許されなくてはなりません。本はいったん世に出れば一人歩きすることが世の常だからです。ただし、それは、上で述べ来たったように、自己を制約している価値観の把握が必要であるという認識を持てたときに限られるでしょう。こうした読書方法は、翻訳の作業に似ているかもしれません（中村保男先生の「創造する翻訳」参照）。つまり、読書の基本は、あくまで執筆者の意思を忖度することだとはいいますが、そのような意識を不可欠な前提とすれば、自由な読み方も許容されるというわけです。いずれの読み方も、刺激的な作業であることは確かです。

## 隨想『下毛野三可母の山』

白鷗大学発達科学部教授

吉田茂

三毳山は、万葉集には美可母と記されている。「毳」は、漢和辞典によれば会意の「毛を三つ重ねて、密生した柔らかい毛をあらわしたもの」という意味で、つまり柔らかな毛のことである。三毳山は、東北自動車道を北上し利根川を渡り、渡良瀬川にさしかかるころに、ちょうど、高速道路のまん中に中央を頂点に三つの山が連なるまことに姿のよい山容を示してくれる。おそらく、頂上に立てば関東平野や利根川の流れが一望できるだろう。万葉人が、この山容に魅せられて、次の歌を詠んだのも頷ける。

しもつけ みかも の山の山のこなら  
下毛野三可母の山の小櫛のす、

まぐわし児ろは、誰が箒か持たん  
(詠人知らず)

松田修著『万葉の花』(195頁参照)によれば、下野の三毳の山のコナラの木のように麗しいあの娘は、誰の嫁となって御飯の世話などするのだろうか、自分の妻となって欲しいものだといった意味である。

コナラの木の芽吹きは、山桜に比しても決し

て引けを取らないくらい美しい。モスグリーンの5枚の葉を下向きに、傘をそぼめたように僅かに開き、暫くすると鈴をつけたような花をそこからぶら下げるるのである。それが春風に心地良さそうに吹かれて銀色に輝く風情は何とも言えず美しく芽吹きの季節の代表格でもある。それにしても万葉人が、千数百年前に、三毳山の山容やコナラの芽吹きの美しさに気づいた感性の豊かさには感嘆してしまう。

現在、三毳山は公園として整備され散策コースとして親しまれているのだが私はまだ散策したことはない。今のところ三毳山が見えてくると、高速道路を降りるために準備をする、ランドマークでしかないのだが、近い内にその機会が訪れる事を期待している。万葉人の素朴な生活ぶりや、豊かな心情を想像しながら。

この文章を書くにあたって、私は、かすかな記憶を頼りにまず、インターネットで「三毳山」を検索してみた。すると山歩きの好きな人のサイトで現在の三毳山の情報を得ることができた。つぎに、それはたまたまだが、所蔵していた上掲書の索引で、コナラの項を調べて、この和歌が詠まれていることを知った。つまり、

このエッセイを書くに当たり、インターネットのデジタル情報を利用したのだが、それは単に入り口に過ぎず、自分自身の過去の体験や経験、他者の情報を伝える書籍などのアナログ情報がより大切であることに気づかされたのである。インターネットは確かに便利で、即時性がありこれからもより発展するだろう。情報化時代の今日、スピードが重視され、インターネットでは大量の情報がものすごい早さで流されている。他方では、書籍や新聞、雑誌のような活字によるアナログ情報は、スピードという面では遙かに時間がかかるものである。

しかしながら、時間のかかるアナログ情報にはデジタル情報にはないよい面が沢山存在している。その一つは、時間を懸けることができなくなってしまった現代人にとって、豊かな自分の時間を取り戻すことができるのもその一つではないか。読書の楽しみは、内容を知るだけではない。まず本を取ってみたとき、その本の手触りや装丁など実感として伝わるものがある。表紙やカバーの装丁、活字の大きさや色彩

なども本としての出来映えを左右する重要な要素である。それらを楽しむのも読書の楽しみといつてもよい。また、本は持ち運び自由でいつでもどこでもどんな姿勢でも楽しむことができる。そして、著者と対話することができるし、想像力を働かせて現在から過去へとタイムスリップすることもできるのである。

最近では、読書離れで、出版業界は苦難の道を歩いているといわれている。その原因の一つに、高速道路網のようなインターネットの発展が上げられている。考えてみると、本は本としてのインターネットにはない楽しみを十分そなえている。要は、読書の楽しみをどう伝えていくかが問題なのであろう。図書館の役割はますます重要性を持ってくることだろう。時間のかかる情報の重要な発信基地である図書館は、既成の知識にとらわれず、自分で探し出す力や考える力、想像力などを養う場として、また自己を取り戻す場として今後ますます重要性を増すことであろう。

## 図書館ニュース

### 本館に新書コーナーを新設しました

次の新書があります。

- ・岩波新書
- ・中公新書
- ・中公新書ラクレ



2階カウンター付近に  
主題別に配架しています。

#### 図書ラベル



中段が「新」となります。

- 新書を分館で利用したい方は、取寄せサービスをご利用ください。  
分館で貸出・返却ができます。

# 新着図書 ピックアップ

007.6/NA	「情報セキュリティ」 名和小太郎著 みすず書房	Y57/TO	「子どもの絵の見方、育て方」 鳥居昭美著 大月書店
015.2/TO	「事例で読むビジネス情報の探し方ガイド」 図書館経営支援協議会編 日本図書館協会	490.8/KE/2	「幼児の健康指導マニュアル」 健康大系編集委員会編 テクノ
175.1/MI	「靖国問題の原点」 三土修平著 日本評論社	498.5/IW	「『現代家族』の誕生」 岩村暢子著 効草書房
201/CA	「いま歴史とは何か」 D・キャナダイン編著、平田雅博訳 ミネルヴァ書房	507.2/AI	「知的財産法の理論と現代的課題」 相澤英孝 [ほか] 編 弘文堂
♥—————♥		△—————△	
N6/KA	「戦争の論理」 加藤陽子著 効草書房	519.12/NI	「地球環境条約」 西井正弘編 有斐閣
291/NI	「合併市町村あのまちこのまち」 日本広報協会編 日本広報協会	675.4/SA	「現代流通の解説」 坂本秀夫著 同友館
311/KA	「国家とはなにか」 萱野稔人著 以文社	E/SE	「わたしの好きなもの」 フランソワーズ作、なかがわひろ記 偕成社
320.34/TA	「最新法令用語の基礎知識」 田島信威著 ぎょうせい	760.33/WA	「世界の民族音楽辞典」 若林忠宏編著 東京堂出版
♥—————♥		△—————△	
324.65/AK	「成年後見の法律相談」 赤沼康弘、鬼丸かおる編著 学陽書房	783.7/KU	「言葉の魔球」 栗山英樹監修 出版芸術社
K91/IW	「簿記の考え方と処理方法」 岩崎勇著 税務経理協会	811.2/新	「日本の漢字」 笹原宏之著 岩波書店
345.21/AM/05	「個人と会社税金のすべてがわかる本」 雨宮雅夫編著 成美堂出版	850/NA	「大学1・2年生のためのすぐわかるフランス語」 中島万紀子著 東京図書
374.3/BE	「学校教師になる」 別府昭郎著 学文社	911.58/NO	「名作童謡野口雨情…100選」 野口雨情著、上田信道編著 春陽堂書店

## ささやき

当館に所蔵がなく、他大学図書館等の資料を利用したい方には、紹介状を発行しています。他館の蔵書は、国立情報学研究所の総合目録データベース (<http://webcat.nii.ac.jp/>) で検索できます。

また、県内図書館の蔵書は、栃木県図書館総合目録 ([http://www.lib.pref.tochigi.jp/soumoku/soumoku\\_top.htm](http://www.lib.pref.tochigi.jp/soumoku/soumoku_top.htm)) で検索が可能です。

平成18年4月1日 発行  
 編集団書館だより編集委員会  
 発行白鷗大学総合図書館  
 〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117  
 (0285)22-9737 (直通)  
 ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp>  
 印刷株尚文堂印刷所